

それでは、届出順に発言を許します。8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 皆さん、おはようございます。私は一番で、こんなやって朝早くから一般質問するのは初めてでございます。市長、お元気でしたか。新政会の船越洋一でございます。

一般質問に入ります前に、一言、ちょっと皆さんにお話をしてみたいと思いますが、請願審査特別委員会も、やっと終わりました。結論も出ました。やはり、この議員間討議の中でも、議員の皆さんから、対馬をよくしたいということで、推進派、反対派の人たちの議論を戦わせました。

それで、結果は出たわけですが、いずれにしても議員として対馬を何とかしたいという思いは一緒だろうと思うんです。しかしながら、この議会というところでは、採決をしなければなりませんので、結果は結果として、思いは皆さん一緒だろうと思います。

それにつきましては、この市長も、その結果が出た以上は、この重い決断をしなければならない状況に入っていると、このように思います。

我々議員の決断というよりも、やはり、執行権を持った人の決断というのは、まだそれ以上に重いものがございます。ここを、やっぱり政治家として、自分の決断によって対馬がよくなるのか、あるいはこのままでいくのかということの岐路に立っていると思いますので、慎重に判断をしていただきたい、このように思います。よろしく願いをしておきます。

それでは、さきに通告をしておりました3点について、市長の考えを伺いたいと思いますので、明快なる答弁を求めるものであります。

1番目に、島内の企業誘致の現状と今後の企業誘致計画についてであります。2番目に、釜山・対馬間の活魚貿易について、3番目に、久田川河口及び巖原本川河口（中矢来）のしゅんせつについて、以上3点について伺います。

まず、1点目の島内の企業誘致については、ホテル、アパレル系の企業誘致もありましたが、その後、誘致の話は皆無ではないかと思えます。

島内には市所有の空き地も多く見られますが、企業誘致の現状と、今後、企業誘致を進める考えがあるのか伺います。

次に、2点目ですが、釜山・対馬間の活魚貿易であります。6月定例会で漁業の振興策として、韓国釜山に活魚を輸出してはどうかと提案をいたしました。市長も前向きな答弁をされており、7月の24日・25日・26日と、平川水産課長に同行していただき、釜山の水産関係商社と協議をいたしました。

平川課長から報告書が上がっているとは思いますが、その報告書の内容を見て、今後の対応をどのように考えるか伺います。

次に、3点目ですが、久田川河口及び巖原本川河口（中矢来）のしゅんせつについて伺います。久田川河口は上流に採石場があり、長年、土石が流れて、漁船の船着き場近くまで堆積し、また巖原港内の中矢来船だまりも、巖原本川、金石川から流れてくる雑排水が中矢来にたまり、夏には悪臭を放ち、衛生面、環境面から見ても悪く、しゅんせつすべきだと思いますが、久田川河口、巖原港内の中矢来の船だまりも県の管轄でありますので、県との協議が必要だと思いますので、強く要望もしていただきたいと、このように思います。

以上3点、市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。船越議員の質問にお答えいたします。

初めに、これまでの企業誘致の状況でございますが、議員、御指摘のとおり、合併前の旧町時代におきましては、アパレル関係事業者の誘致案件が複数ございました。

また、対馬市発足以降、平成26年度から29年度にかけては、交流人口や関係人口の拡大への対応をはじめ、急増した韓国人観光客の増加等を受け、宿泊、ホテル業を中心に誘致の取組を進めた結果、ホテル・宿泊業4社、木材加工製造業1社の計5社の企業誘致を行っているところであります。

しかしながら、平成30年度以降は、議員、御承知のとおり、コロナ感染症の拡大等を受け、対面による誘致活動ができない期間が続いたことや、韓国人観光客を中心とした、国内外の観光客が急激に減少したことにより、企業からの新たな立地のお話は、進んでいない状況であります。

このような状況が続きましたが、ようやくコロナ感染症も5類に引き下げられ、国際航路も再開するとともに、国内外の観光客も徐々に増加傾向となりましたことから、本年度に入り、企業誘致の取組も、少しずつではありますが実施しているところでございます。

まず、昨年度において、廃校舎の利活用における利用料の免除等を可能とする制度設計を行いましたことにより、本年度においては、利活用可能な廃校舎の詳細情報をはじめ、企業誘致条例に基づく支援の概要や創業、事業拡大に対する支援制度、移住に対する各種の支援制度を網羅した企業・個人向けパンフレットを作成し、来島される事業者の方々へ御説明するとともに、福岡、関西、東京の各対馬会総会におきまして、説明、PRをさせていただいているところでございます。

また、企業誘致を進める上で、基本となります企業誘致に関する条例につきましても、離島というハンデを少しでも緩和できますよう、現在、県内外の各市町の支援内容を精査の上、指定基準の緩和をはじめ、優遇措置の拡充に向け、町内において協議、検討を進めており、本年12月定例会の議案上程に向け準備をしているところでございます。

なお、本年度より整備を進めておりますNTT光回線の整備につきましても、現時点の予定と

しては、令和7年度中には市内全域において大幅に回線速度が改善されますことから、これを本市の一つの売りとして、ソフトウェア業や情報関連産業を中心に誘致活動を進めていくこととしております。

企業誘致は、創業や事業拡大、事業承継等による雇用機会の確保と併せまして、本市の人口減少抑制のためには、一層、取組を強化していかなければならない分野であると考えております。

誘致の業種としては、本市において求人倍率が低い事務系の業種をはじめ、富裕層をターゲットにした高級ホテルの誘致が必須であると考えており、私が先頭に立ちトップセールスを進めていくことで、本市における雇用の場を確保してまいりたいと考えております。

特に、女性が働ける職場の確保は喫緊の課題と考えておりますので、全力で取り組んでまいります。

次に、2点目の釜山・対馬間の活魚貿易についてでございますが、対馬市水産業の現状としまして、水産資源の減少や漁獲規制の拡大等に加えて、燃油価格のさらなる上昇、餌料の急騰など、非常に厳しい状況となっております。

議員、御質問の釜山・対馬間の活魚貿易につきましては、6月議会の一般質問の際に長崎税関資料として、長崎県からの活きブリ輸出が好調で、過去最高を記録したとの情報提供をいただき、輸出ルート等も踏まえながら、早急に研究すると回答させていただきました。

その中で、7月末の議員による釜山視察に市職員も同行させ、対馬市水産業の現状を説明した上で、韓国の漁業情勢等について意見交換を実施してきたところでございます。

近年では、様々な要因により水揚げ量が減少してきており、漁業者にとりまして、コスト負担の軽減、漁獲物の付加価値向上が漁業継続の基盤となってまいります。

このため、韓国との活魚貿易についても、もうかる漁業の推進に寄与するものであることが前提であると考えておまして、今後は主体者となる地元漁協の関係者の意向を伺いながら、その可能性について、幅広く研究をしてまいる所存であります。

次に、3点目の久田川河口及び巖原本川河口のしゅんせつについてでございますが、巖原港につながる河川は、2級河川が巖原本川と久田川の2河川、普通河川が金石川をはじめ5河川でございます。

御質問の久田川の河口には、お船江などの景勝地、また漁港区である久田浦には外来船も多く、水揚げや係留など、漁業の拠点的作用を果たしています。

また、巖原本川並びに金石川の河口は、皆様、御存じのとおり、商港区として、対馬の人流、物流の拠点でございます。また、通称中矢来は、近隣の小型船舶の係留場所として親しまれているところでございます。

議員、御承知のとおり、当該施設はいずれも県管理の施設でございます。所管する対馬振興局

河港課も現状を把握しておりまして、久田川河口部の泊地に堆積している土砂の取り除きを検討しているとのことでございます。

また、厳原本川河口部の中矢来付近につきましては、狹隘で家屋も密集しているため、頻繁な作業が困難なことから、船舶の利用状況を見ながら検討していくとのことでございます。河川や海の環境改善を図るためには、市民各位の御協力をお願いするところでございます。

併せまして、合併浄化槽設置の助成事業の活用などを啓発し、住みよいまちづくりに努めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） まずは1点目の企業誘致の件ですが、この前の一般質問の折に、市長の答弁では、廃校舎の活用については、数件依頼があつとるという報告は聞きました。

廃校舎は、確かにこれも利活用をしっかりとやっていかないと、これは分かります。これもしっかりとやって、廃校舎を少しでもなくなるようにしていかないとというのも分かります。しかしながら企業誘致も、やはり大事なことだと思います。

厳原近辺を見ましても、焼却場跡、厳原の。それから火葬場跡、それから野良の、今、ホテルが建っている横、そこもまだ空き地があります。これも市有地ですね。

やはり、そういうところを活用して企業の誘致を図っていく、また雇用を増やすという努力は、常々、行政としてはやっていかないとだろと思うんです。

もう一つは、佐賀漁港の鹿ノ浦。あそこにも、まだ、市有地がありますよね。あそこは広いところですから、ちょっと大型の企業誘致が必要だろと思うんですが、そういうところについてはどのように考えていますか。今、私が言ったところ。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、1点目の厳原の焼却場跡、そして火葬場跡につきましては、実は大型のホテルの関係者のほうから、視察はしていただいたところでございますけれども、若干、そのホテル等が考える用地等につきましては、狭いんじゃないかなというような御指摘があったということは、私も聞いております。

そして、またもう一か所の、今、あそこは何ですか、下のほうです。下のほうの用地については、面積は結構あるんですけども、埋立地ということで、かなりの基礎杭等の施工が必要ではないかなというようなことで、ここは、そういったところでもよければというようなことでの紹介が、今後、必要じゃないかなというふうに思っております。

それから、また峰港の鹿ノ浦地区でございますけれども、議員、おっしゃられるように、確かに背後に、かなりの市の単独用地を造成しているところでございますので、このことについては、

森林組合さんともいろいろと協議もさせてはいただいているところでございますけれども、木材関係の処理場をはじめ、加工場等の誘致ができないかということで、今後、検討を進めてまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 市長の説明で、大方は分かるんですが、やはり、早くこれをやらんと、検討しております、今、向こうからも来て、いろいろ調査しておりますとか、これを何年するんですか。こんなことをやっと思ったんでは、いつまでも、これは企業誘致はできませんよ。もう少し行動を活発化させて、精力的に動く必要があるかと思えますけど、どうですか。

もう少し精力的に、職員でも担当課を置いて、やっぱり、そこら辺を企業誘致をやる、そうすることによって、対馬が活性化していくんです。

ところが、空き地がこれだけあってでも活用できていないということになると、活発な活動ができませんよ。そこら辺は、もう少し詳しくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おっしゃられることは、よくよく理解をしております。

それで、先ほども冒頭の答弁の中でも申し上げましたように、今現在、12月の定例会のほうに議案上程をいたしたいということで、庁内で内容を詰めているところでありますけども、やはり、企業を誘致するときには、他の自治体の関係もよく調べながら、他の自治体よりも有利な条件で誘致をするというようなことを持っていきませんと、なかなか、ただでさえ、この資材運搬等の運賃がかかる上に、離島であるというハンデを背負っていますので、ここら辺をカバーするような条件等の優遇措置拡充に向け、この12月の定例会に上程をいたしますので、そこら辺でまた、御指導と御協力をいただければというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 光通信ケーブルも、速度が速くなるということですから、やはり、これは一つの大きな問題でしたよね。

ところが、これを市長がやってくれましたんで、これは企業誘致には大きなプラスになると思うんです。これを生かしながら、どうすれば空き地を企業誘致をして活性化させるかというのは、行政の手腕なんです。

このまま、ずっと放っておくと寂れていきます。特に、今でも元気がないのに、そういう空き地がたくさんあるということになると、活性化にはつながっていきませんので、そこら辺に、もう少し力を入れてやっていただきたいと思えます。

それと、鹿ノ浦の件なんですけど、鹿ノ浦は、下のほうには木材の積出し港として積んでありますよね、鹿ノ浦。あれは森林組合かどっか、そういう木材関係のところだろうと思うんですが、

上の段にも、その空き地がありますよね。これも市の所有でしょう。

ここに、例えば企業誘致をしたいと、企業が入りたいということであれば、市長はどう思いますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、先にNTTの光回線の関係で、今後、この回線速度が改善されるということで、有利になっていくんじゃないかということで、もう私、直接NTTの九州支店長ともお話を、いろいろとさせていただきまして、私自身から、このNTTの関連会社のほうが対馬へ進出していただけるよう、強くお願いをしているところございまして、支店長のほうとしても、できる限りの御協力をするというような言葉をいただいておりますので、今後も力強く進めてまいりたいと思っております。

次に、2点目の鹿ノ浦港のほうにつきましては、もちろん、この進出企業があれば、私としては進めていくことはやぶさかではありませんけど、その前に、やはり、あの港が、ちょっとした強い風が吹けば、なかなか係船が、今の段階ではしづらいところがあるというようなことで、その木材の運搬船、そしてまた、その林業関係者の皆様から要望を受けて、昨年度も重点事項として県知事のほうに、この鹿ノ浦港の整備促進を要望しているところでございます。

企業が進出したとなりますと、おそらく、その陸上輸送だけではなくて、やはり、あそこから直接、船での輸送が可能となることを望まれると思っておりますので、ここら辺の条件整備も併せて進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 確かに、その難点はあると思うんです。しかし、今からその整備をするのに、どれぐらい時間がかかるのか、そういうことを言っただけでは、あそこは一生、その企業誘致はできませんよね。

けども、船の積出し港として活用しなければ問題ないと思うんです。私も、ここでちょっと提案をしておきたいと思うんですが、韓国企業で、会社がセデスというんですが、バイオマス発電と関連した事業をやりたいと。しかし、そこが、今、計画書が、ちょっと私も持ってはきていましたが、事業費が約20億円、それから雇用が48名ということで、何とか対馬に入りたいというお話が来ております。

こういうところを、やっぱり企業誘致をすることによって、あそこら辺が少しは変わってまいりますの、対馬の発展にも有効になっていくんじゃないかなと、こういうふうに思います。

今、私、それ言いましたが、要は、そういう企業が企業誘致で入りたいということがありますが、それについて、市長、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この企業誘致の関係につきましては、特に、この木質バイオマス等につきましては、国内の企業のほうも、対馬でやれないかというようなお話が来ておりました。

ただ実際には、なかなか、その採算がどうなのかというようなことで、まだ、最終的には対馬のほうでやるというようなお話にはなっていない状況であります。

そういう中、また韓国の企業等が、そういったふうにして進出をするということを考えますと、現地法人を立ち上げていただいた上で、事業を開始していただくということにいたしませんと、法人税、そしてまた税制面、こういったところで対馬のほうの効果に、促進にならないというようなことを思いますので、このことについては、やはりまた、これから、いろんな面での協議を進めていく必要があろうかというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 現地法人をつくるというのは当然のことだろうと思うんです。そうすると、対馬市の収益に上がりませんので、そこら辺は、私もしっかりと考えておりますが、要は、一回、対馬に入って、そういう説明もしたいという話が来ていますので、これは、しまづくり推進部長のほうに、一回、面会に行って、そこら辺の説明もしてやっていこうかなと思うんですが、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 企業誘致の担当課としては、私どものしまづくり推進部でございます。ただし、その事業内容が木質バイオマスとかということになると、島内での木材の供給体制とか、そういったところが出てきますので、もちろん、お話は聞きますけれども、農林水産部のほうと一緒に、話は聞きたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） そういうこともありますので、その部長のほうと担当の部長のほうと、向こうの企業の方も来ていただいて、そこでしっかりと打合せをした中で、それからの問題だろうと思うんです。

もう一つは、今、市長も言われましたように、それには、やはり現地法人をつくってという話もございますので、そういうことも含めた話を、まず部長のほうと話を、面会をして話をしてみたい、このように思いますがよろしいですか。

じゃあ、市長、そこら辺は、部長のほうと協議をさせていただくということで、よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、2点目のほうに移りたいと思います。

2点目の、韓国との貿易についてですが、これは、現地に行って2社の商社の代表とお話をさせていただいて、確かに対馬産の魚というのは魅力があると、何とか取引はやりたいということ

でした。

しかしながら、今の対馬の現状を見ますと、韓国に輸出するだけの魚種がないんです。少しは皆さん持ち寄ってくれば、少しはあるんですが、貿易となってくると、例えば活魚船で持っていくにしても、ある程度の量が要ります。

だから、それだけの量がそろわないということで、要は、今から先を考えると、例えば韓国で欲しがっているタイ、あるいはブリですか、こういうのを、養殖業をしっかりと立ち上げて、それからマグロ、これも、韓国はオーストラリア産の冷凍マグロを入れているということですが、対馬からだとならば二、三時間で走りますから、締めて、すぐ走っていけますから、そうすると生のマグロが供給できるということも説明をいたしました。

大変、その会長さんも乗り気で、それは、もうぜひやりましょうということなんですが、要は、今現在、対馬の魚がそろわない状況ですから、最初は少しずつでもいいから貿易をやりましょうと、少しずつ、そのうちに養殖業もしっかりと組み立ててやっていけば、2年ぐらいうれば魚も出来上がるでしょうから、そういう組立を、今から組合のほうとも話をしながら、これには、やはり業者のほうも入って話をせないかんと思うんですが、できるだけ、その魚が有利な条件で韓国に輸出ができるという確立をやらないかん。これには、私も一役買うつもりで向こうとも話をしてきましたので、船会社のGBKの会長ともお話を、1時間半ほどやりましたけども、ここも人間だけじゃなしに、物流もやりたいということなんです。8月中に、そこに入れる船というのは確保できているけども、これが約400トン、400人乗りぐらいの船だそうなんです。

けども、これで税関のほうに通らないということであれば、オーストラリアのほうから700人乗りの船を入れてでも、何とか対馬には運航したいという強い思いがありました。

そこが入ってくるということになってきますと、例えば活魚船をつくらなくても、要はそのフェリーに魚を積んで船に運べるという可能性も見えます。だから、今現在が、魚が対馬、少ないから、今すぐというわけじゃないわけですから、そこら辺が整えば活魚船は造らなくても、それで活魚を運べるという状況も生まれてこようかなと思うんです。

そういうことも視野に入れながら、対馬の漁業の振興策をどういうふうにして持っていけば、漁師の皆さんが、収益がどう上がるかということもしっかり考える必要があろうかと思うんです。

そこら辺は、行政のほうで指導をしていただいて、漁業者が少しでも利益になるような方策を、しっかりと考えていただきたいと思うんです。

だから、動向がどうなってくるか分かりませんが、今、GBKのほうも、その申請を出していますから、それがどうなるか、まだ、今のところ分かりません。

しかしながら、私の構想では、活魚船をつくって、そのまま統営港に運ぶというのが構想でしたから、しかし、GBKの社長とお話をした中で、そういう話がございましたので、これも一つ



の方法だなという思いもしております。

ですから、そこら辺を含めた中で、今、養殖業は、タイとかいうのは余りお金にならないからやっていないんです。それを復活してもらおう努力を、これをやることによって、韓国の方の受入れがしっかりできるということであれば、タイの養殖も、また復活するかも分かりません。

だから、そういう指導を、やはり行政も一緒になって、漁師の皆さんと組合員の皆さんと話をさせていただいて、どういう方向で持っていくぞということを考えていただきたい、このように思いますがいかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず初めに、議員が市の職員と一緒に、韓国の方に調査に行っていたということにつきまして、初めにお礼を申し上げたいというふうに思います。

その中で、担当課長のほうから復命が出ておりました。復命を見たところ、韓国の物流会社というんですか、名前は出しませんが、ここの方も対馬と水産交流をしたいけども、今、議員、おっしゃられるように、取扱い数量の確保が、まず課題ではないかというようなことをおっしゃられているというようなことと、対馬の港のほうで、そういった貿易関係でオープンになっていくことについては、韓国の会社としては歓迎をいたしますよというようなことでありました。

それと、またやはり、対馬市の場合は、議員もおっしゃられておりますように、漁種は豊富なんですけども、それぞれの取扱い数量が少ない。そこで、ちょっと難しい問題があるのではないかというようなことを、我々は、ちょっと今、部内でも話しておるところでもありますし、漁協の組合長さんのほうに、ちょっとヒアリングをさせていただきましたところでも、やはり、そこを一番心配をされているというようなことと、これまで、県漁連との長年の関係性、そして系統販売、こういったところでやってきた関係上、大規模な販路変更がどうなるのかということも心配もされてあるということでございますし、このブリ、タイの養殖も、島内で、今、どのくらいの量があるかということ、ちょっといろいろ聞いていたんですが、なかなか、今、その量としては把握はできていませんけど、ブリ、タイの養殖事業者は、今のところ、おそらく2業者ぐらいしかないんじゃないかというような話は聞いております。

そこで、議員、おっしゃられるように、今後、このような物流体制が可能となる場合は、また改めてブリとかタイの養殖も、県のほうと協力しながら、振興策を練っていかねばならないのかなというふうに思っております。

マグロにつきましては、今現在、対馬のマグロ事業者は23事業者ありますけども、大手商社のほうと直接契約をされて、出荷をされてあるというようなことで、まして、今現在、国内の取引単価のほうで、ずっと高値で継続をしてきているということで、このマグロについては、なかなか難しいのではないかなというお話も聞いております。

それと、これは参考までですけど、以前、私、農林水産部長をしていた頃に、一時、試験的に対馬からマグロを出されたということがありましたけども、このときに韓国のほうの商いといいますか、その習慣として、サンプルの量がかなり要るといようなことで、サンプル量で、これやったら、もう赤字でやっていけないといようなことで、断念された形跡もあったといことを、私も記憶をしております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 市長、今、サンプルの件を言われましたけども、チャガルチ市場でマグロの解体ショーをやりましょうかと、私は、その会長に言ったんですけども、ぜひやってくださいと、しかし、それもたくさんはできませんよと、ちょっと、パパッとそこを通る、チャガルチ市場に来られる人に、対馬のマグロですよといことで、宣伝をするためにも、そういうのもいいんじゃないですかねといったら、それは、ぜひやりましょうよといことなんです。

今、一つには、今、シイラ漬漁がありますね。これはヒラスが、小さい稚魚が入ります。こういうのを、やはり生けすに入れて1年くらい飼っておけば大きくなる、そこそこ大きくなるでしょう。こういうのをまとめて韓国に送ると、そういうことも考えられると思うんです。

韓国から、この対馬を経由して、日本に輸入、今度は帰りがけの荷として、その話もしました。日本にはアワビが少ないから、アワビはどうですかといったら。それは任せてくださいと。韓国はアワビがたくさんありますから、それは、大丈夫ですよ。韓国では、アジ、サバは余り食べませんので、これも日本で食べるといことであれば、出してもかまいません。そういう話も、突っ込んだ話もしまして、何でこういう話ができるかといますと、行政が単独で行っても、こんな話はできません。

ですから、私もわざわざ水産課長と一緒に動向してもらって行って、それを行政の課長にしつかりと聞いていただいて、そこの中で行政としての判断をしていただきたいがために、一緒に動向して行ったんです。

だから、そこら辺は、よくよく課長も理解してあると思いますので、そこら辺のことをどう進めていくかといことは、私がそこの中に入ってやるわけにはいけませんから、行政のほうに。だから、そこはそこで理解をしていただいた中で、行政としてどうせないかんのかといことを、しっかり考えていただいて、計画を練っていただきたいと。

対馬の漁業関係を、旧態依然として、昔の流れの中でやっていくのでは、発展性はありません。先ほど、市長も言われましたけど、組合から県漁連、こういうルートがありますので、ですから、それを一概に切るといわけにはいきませんでしょうが、何とか、そういうことをかいくぐってでも、漁業をしておる人たちの実入りがよくなるような方策を考えていくのも行政の仕事だろう

と、私はそう思います。

ですから、そういうことをしっかり考えて計画を練っていただきたいと思う、やれることはやって、養殖でも、タイの養殖をしておいた人たちも、タイの値がしませんから、みんな辞めてしまいましたよね。ところが、韓国ではタイが売れるんです。タイが、ものすごく売れるんです。

ですから、そういうところも含めて、我々も現地で行って話をしてきましたので、これをやるとなると、もう一回行って、そこら辺の市場調査、それからタイの購入量とか、そういうこともしっかり調査する必要があるかと思うんですが、そこら辺も、しっかり検討をしていただきたいと思います。

それから、3点目の久田川と巖原港の河川のしゅんせつについてです。これは、私も県の事業だということは承知しております。

もう20年ぐらい前に、中矢来のしゅんせつは1回やったんです。久田川の河口もやりました。ところが25年ぐらいになるかな、そのときにやったきりやっていない。

そうすると、先ほど言いましたように、金石川から流れてくる、それから、巖原本川から流れてくる雑排水は、全部の中矢来にたまる。臭い。夏は特に悪臭がします。

あそこら辺、住民の方たちは、それを耐えているんですが、やはり、市長が言われる、おもてなしの観光になっていきますと、観光客は、あそこ、歩いて悪臭がするんじゃ、どうにもなれませんかよ。

しかし、それは市でできることではない。県の事業ですから、県のほうに、それをしっかり言っていただいて、久田には、稲田鉄工の横に県有地がありますが、広場がありますが、ここに、もう廃船が何台も上がっているんです。あそこも、県のほうに私も行って言いましたけども、何かは減りましたが、まだまだある。これもなかなか先に進みません。

それで、巖原港の、その久田漁港の防波堤ですか、防風ネット、この件についても、設計はしておりますと言うが、いつになるか分かりませんよね。分かっていたら答弁願いますが、そこら辺も含めて、やはり、そういうことを一つ一つをやっていただくことによって、その地域、あるいは漁師の人たちのやる気が変わってくるんです。そこら辺を、ひとつ答弁願います。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） 巖原港、久田の分の防風フェンスに関しましては、一応、確認したところ、設計のほうは、さっき、議員、おっしゃられたように、令和4年度に設計ということで、設計が完了次第、予算要望していくということで話を伺っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） やっていただいているというのは分かるんですが、とにかく、この

久田の漁港は、市長も言いましたように、漁船が60そう、70そうおるわけですから、台風時には避難するところがない。あれだけの船が避難するところはありません。

ですから、防風ネットでも、しっかりやっていたかんと、事故でもあったら大変なことになります。損失になりますから。だから、そこら辺もしっかり踏まえた中で、しっかりと、そこら辺も県のほうに強く言ってください。よろしく願いしておきます。

これで終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からといたします。

午前10時50分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 9番議員、会派、市民協働の脇本啓喜でございます。

通告内容に入る前に、私がSNS等で「食い逃げ」との表現をしたことに関する謝罪要求についてお答えいたします。

パワハラもセクハラも同様ですが、受け手がそう感じるのであれば、つまり私の主張がどうであれ、不快に感じられた方がいらっしゃるのであれば真摯に反省しなければならないと思っております。その方に向けて謝罪申し上げます。申し訳ございませんでした。

続いて、議会初日に上程されました、高レベル放射性廃棄物最終処分場誘致に関する8件の請願をめぐる採決結果について、所見を述べます。

採決の結果、文献調査の受入れさえ反対議員が8名、最終処分場誘致までも賛成の議員が10名となり、最終処分場誘致はもちろん、文献調査の受入れさえも反対する多くの市民がいらっしゃるにも関わらず、その御期待にお応えできなかったことにつきまして、じくじたる思いであり、大変申し訳なく、この場をお借りして深くおわび申し上げます。この上は、議会最終日の比田勝市長が文献調査受入れ拒否の表明をなさることを切に要望いたします。

さて、ここから通告に従い質問を始めます。

一昨日、小島議員は一般質問で、対馬市が掲げるSDGs推進の理念を市民に浸透させられていたならば、高レベル放射性廃棄物最終処分場誘致をめぐる動きはそもそも発生していなかったのではないかと主張なさいました。私も小島議員の御主張に強く共感を覚えました。

最終処分場誘致推進派は、対馬市の財政逼迫を誘致賛成の理由の一つに挙げていらっしゃいま